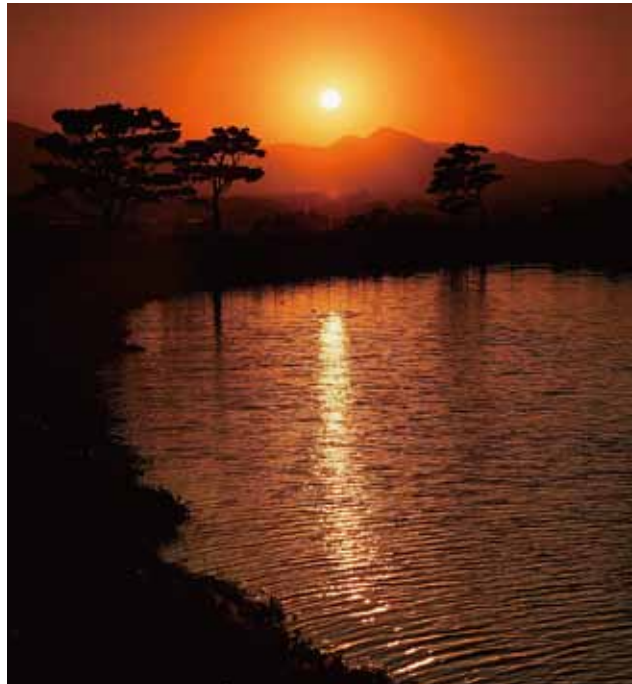




崇神天皇陵より二上山へ沈む夕日を望む

題字：中西 柳邨

まちづくりマップ

柳本

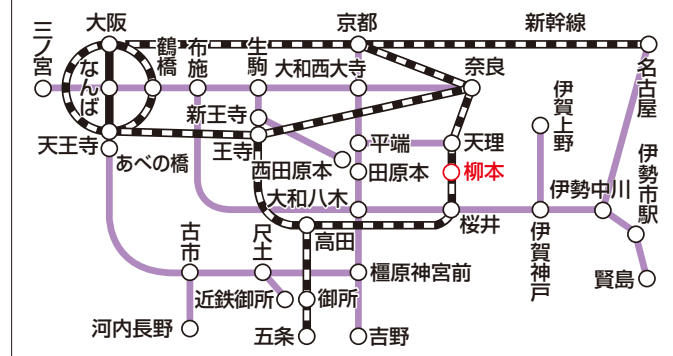
やなぎもと

うまとし美し

行事

- 1月1日 正月祭（伊射奈岐神社）
- 1月10日 長岳寺節会
長さ8mの勧請縄懸け
- 1月第2月曜 御田植祭（伊射奈岐神社）
- 4月上旬 黒塚さくら祭り
- 4月21日 釜の口れんぞ（長岳寺）
弘法大師を偲び、本堂前で行われる
大柴灯護摩火祭り
（行者問答、法弓作法、法斧作法等）
- 7月8日・12日 薬師さん（五智堂）
薬師如来の縁日に、長岳寺本堂の
薬師如来を五智堂に移して祈願する
行事
- 7月下旬 太神宮
伊勢街道（上街道）沿いにある常夜灯
前で、江戸時代から続いている安全
を祈願する行事
- 7月24日 地藏盆（駅前や上長岡）
- 8月お盆前 夏祭り・盆踊り
- 8月24日 庚申さん・風日待（町内各所）
- 9月中旬 柳灯会（黒塚古墳周辺）
- 10月14日・15日 伊射奈岐神社秋祭り
- 10月23日～11月30日 大地獄絵開帳（長岳寺）

路線マップ



協働によるマップづくり

■奈良県では、地域資源を再発見するため、マップづくりを行っています。平成26年度は次の地区で作成しました。

柳本
(天理市)

■このマップは「柳本町自治連合会町づくり推進委員会」と「なら・まちづくりコンシェルジュ(事務局:奈良県地域デザイン推進課)」が協働で作成しました。
■平成27年(2015年)3月発行
■問い合わせ先:
柳本町自治連合会(柳本公民館) TEL 0743-66-1004
奈良県地域デザイン推進課 TEL 0742-27-7515

柳本のはじまりと歴史

柳本は、奈良盆地の南東部に位置し、災害が少なく豊かな実りに恵まれた土地柄である。そのため、古く縄文時代から人の営みがあり、古代大和王権を育んできた。また、古事記・日本書紀の舞台として、多くの古代ロマンが躍動しているところでもある。中世は、興福寺の中心的な荘園として繁栄し、近世には織田藩の領地として発展してきたという、歴史あふれる町である。柳本という地名は、元正天皇の御代(奈良時代680～748)、興福寺に招かれたインドの高僧 善无畏三蔵(ゼンムイサンゾウ)が大和を巡業のおり、小川のほとりに一本の大きな柳樹があるのに感動され、付近一帯を楊本と名付けられたことに始まる。柳本と書くようになったのは、江戸時代に入ってからである。

縄文・弥生	世紀	柳本に人の営みが始まる	裏面写真番号
前期 古墳時代	2	(189 卑弥呼、邪馬台国女王となる) ※魏志倭人伝	⑥
	3	(239 魏の皇帝が卑弥呼に銅鏡100枚を下賜) 黒塚古墳 【三角縁神獣鏡33面出土】 伊射奈岐神社造営【日本書紀 崇神7年】 ※大字ノゾキに造営、後世に現在地へ遷宮 ※天文年間(1532～1554)に社記紛失、創立等詳細不詳	⑨ ⑭
	4	天神山古墳 ※伊射奈岐神社境内 【内行花文鏡をはじめ鏡23面・多量の水銀朱が出土】 行燈山古墳 【第10代崇神天皇陵】 柳本大塚古墳 【大型の内行花文鏡出土】 渋谷向山古墳 【第12代景行天皇陵】※日本武尊の父 櫛山古墳 【双方中円墳という特殊な形】	⑬ ⑮
	5	龍王山古墳群	⑫
中期 後期	6	上ツ道(後の「上街道」)【日本書紀に記述】 (645 乙巳の変 646 改新の詔)	⑤
	7	柳本の街形成 ※大和国造家、ベベノ木辺りに居住 (710 平城京遷都) (712 古事記完成) 718 楊本(柳本)の地名発祥【善无畏三蔵が命名】 善无畏三蔵による五智堂の建立 ※長岳寺寺伝	④
	8	(720 日本書紀完成) 興福寺(大乗院)荘園 楊本庄 【柳本小学校辺りに下司の館～柳本城】	
	9	(794 平安京遷都) 824 長岳寺開山 ※淳和天皇勅願により弘法大師開山 859 伊射奈岐神社、大和国従五位上 ※日本三代実録(901)・延喜式神名帳(927)に社名	⑩
古代	12	(1192 鎌倉幕府成立)	
	13		
	14	(1394 室町幕府成立) 楊本氏興る ※大和国造家の末裔、楊本勘解由左衛門義住が始祖	
	15	1498 楊本氏、十市氏により失権 ※十市氏による柳本支配(龍王山城) 1569 龍王山城陥落 1584 専行院開山 ※楊本範宣の本願 【柳本織田家の菩提寺・織田有楽斎の墓所】	⑫ ⑧
中世	16	1585 楊本氏の主だった家臣団は伊賀国に移住 1586 豊臣秀長が柳本を所領 1600 (関ヶ原の戦い) 織田(有楽齋)長益が柳本を所領	
	17	(1603 江戸幕府成立)	
	18	1615 織田長益の五男、尚長の所領 【柳本藩1万石】 1724 迎蓮寺(下大念仏寺)開山 1864 行灯山古墳の濠改修普請 ※農業発展の礎となる (1868 明治維新) 1871 廃藩置県 ※柳本県設置(7月)・奈良県設置により統合(11月)	③
	19	1876 堺県城上郡柳本村(4月) 1881 大阪府城上郡柳本村(2月) 1887 奈良県式上郡柳本村(11月) 1897 郡制改革により奈良県磯城郡柳本村(4月1日) 1899 柳本駅開業 【記念植樹の楠木が現存】	①
近代	20	1924 柳本町に昇格(1月1日)	
	21	1931 柳本駅前に首なし地藏安置(7月) 1945 大和海軍航空隊大和基地開隊(柳本飛行場) 1954 柳本町ほか5町村の合併で天理市発足(4月1日)	②

柳本のいろどり



黒塚古墳と桜

春



釜の口れんぞ(長岳寺)

夏



柳灯会(黒塚古墳周辺)



薬師さん(五智堂)



山の辺の道(ノゾキ)からの二上山

秋



愛染堂跡(長岳寺)

冬



柳本古墳群

黒塚古墳



⑩ 長岳寺
(建築物4棟、仏像5体が重要文化財)
824年淳和天皇の勅願により弘法大師が大和神社の神宮寺として創建されたお寺です。鐘楼門は、創建当時のままと伝えられる日本最古の鐘楼門です。
四十八カ坊あった塔頭の内、唯一残ったもので、地藏院本堂は、延命殿ともいわれ檜皮葺の屋根と唐戸が美しい。本尊は、阿弥陀如来坐像及び両脇の観世音菩薩、勢至菩薩で、玉眼を使用した仏像として日本最古のものです。
また、四季折々の花も楽しめます。



⑪ 天理市トレイルセンター
(トレイル青垣)
山の辺の道を歩くハイカーの休憩所になっています。野鳥、植物の写真展示や黒塚古墳の模型などがあり、山の辺の道の歴史と自然を学ぶことができます。



⑫ 龍王山(586.6m)からの展望
龍王山には十市氏によって築かれた大和を代表する中世城郭である龍王山城があります。
大和平野が一望でき、条件が良ければ、明石海峡大橋が見えることもあります。龍王山への登山道の途中には、600基もの小規模な古墳が密集して築かれています。



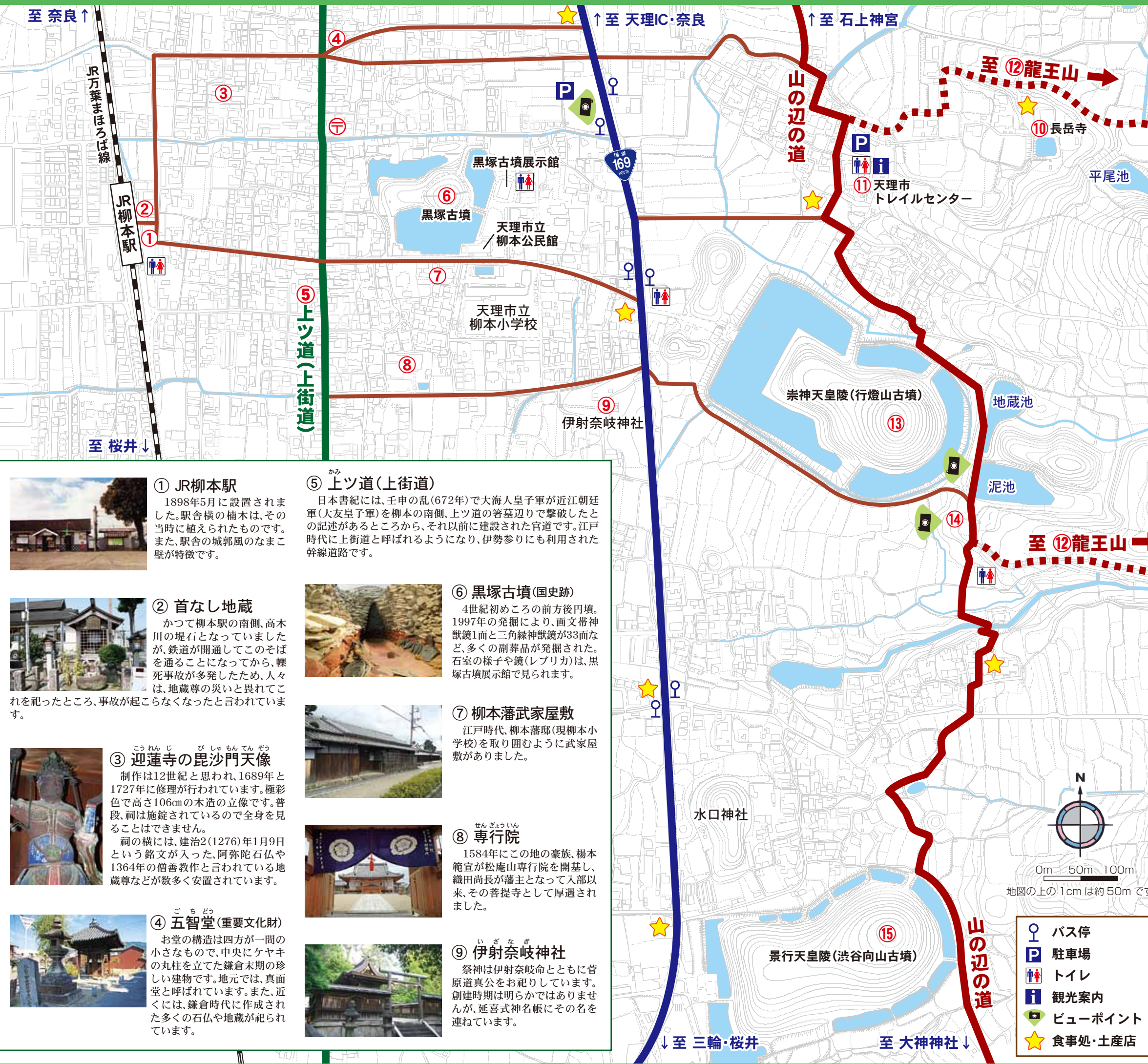
⑬ 崇神天皇陵(行燈山古墳)
ヤマト王権の創始者とも言われる第10代崇神天皇の陵墓。全長242m、周濠を含めると360mの巨大前方後円墳です。この御陵は、大和平野が一望できる絶好の観光スポットです。



⑭ 山の辺の道沿い(ノゾキ)からの展望
柳本から大和平野が一望できる最高のスポット。この地には、かつて伊射奈岐神社がありましたが、天皇陵より高い位置にあることから、後に今の場所に移されました。



⑮ 景行天皇陵(渋谷向山古墳)
全長300mの前方後円墳で、4世紀の古墳ではわが国最大規模を誇ります。第12代景行天皇は、崇神天皇の孫で、日本武尊の父にあたるといわれています。



① JR柳本駅
1898年5月に設置されました。駅舎横の楠木は、その当時に植えられたものです。また、駅舎の城郭風のなまこ壁が特徴です。



② 首なし地藏
かつて柳本駅の南側、高木川の堤石となっていたものが、鉄道が開通してこのそばを通ることになってから、轢死事故が多発したため、人々は、地藏尊の災いと畏れてこれを祀ったところ、事故が起こらなくなったと言われていす。



③ 迎蓮寺の毘沙門天像
制作は12世紀と思われ、1689年と1727年に修理が行われています。極彩色で高さ106cmの木造の立像です。普段、祠は施錠されているので全身を見ることはできません。
祠の横には、建治2(1276)年1月9日という銘文が入った、阿弥陀石仏や1364年の僧善教作と言われている地藏尊などが数多く安置されています。



④ 五智堂(重要文化財)
お堂の構造は四方が一間の小さなもので、中央にケヤキの丸柱を立てた鎌倉末期の珍しい建物です。地元では、真面堂と呼ばれています。また、近くには、鎌倉時代に作成された多くの石仏や地藏が祀られています。



⑥ 黒塚古墳(国史跡)
4世紀初めころの前方後円墳。1997年の発掘により、画文帯神獸鏡1面と三角縁神獸鏡が33面など、多くの副葬品が発掘された。石室の様子や鏡(レプリカ)は、黒塚古墳展示館で見られます。



⑦ 柳本藩武家屋敷
江戸時代、柳本藩邸(現柳本小学校)を取り囲むように武家屋敷がありました。



⑧ 専行院
1584年にこの地の豪族、楊本範宣が松庵山専行院を開基し、織田尚長が藩主となって入部以来、その菩提寺として厚遇されました。



⑨ 伊射奈岐神社
祭神は伊射奈岐命とともに菅原道真公をお祀りしています。創建時期は明らかではありませんが、延喜式神名帳にその名を連ねています。